

千八百七十八年九月十六日刊行「ジャボン」ヘラレト新聞抄譯

日本會計論

豫算表ノ關係



傳一

4241



114
A1531



九月十日刊行
ヘラルド新聞抄譯

本會計論

吉田五十穂譯

大正十一年四月

吾輩ハ此三ヶ年間會計年度ノ六ヶ月ノ全ク終ルマデ大蔵卿ノ
 歳入出ノ豫算表ヲ得タルヲナキ習慣ナリシヲ以テ本月初旬東
 京日々新聞ニ記載シタル明治十一年度自十一年七月ノ歳入出
 豫算表并ニ大蔵卿大隈君ヨリ前會計年度ノ終ル前一日即チ六
 月二十九日ヲ以テ太政大臣ニ進呈セシ申文ヲ觀テ警惕ノ至ニ
 思エス、此豫算表ハ蓋シ曾テ無事ニ經過スベシト看做シタル六
 ケ月間實際ノ經驗上ヨリ得タルモノニ準拠スルナリ編製サレ
 レモノニシテ新々如ク迅速ナル發出ハ未タ先例ナキヲ以テ稍
 之ヲ大蔵卿ガ其企圖サレタル常費ノ裁減ヲ成ルタケ速カニ官
 院省使司ニ告知シ且其承諾ヲ得ント欲スルノ銳意ニ出ルモノ

ト看做ガルヲ得ズ然レモ亦タ若シ之ヲ紙幣ノ價格ノ常ニ甚シ
キ低降ヲ為スニ歸スルヲ得ザルハ吾輩ハ大ニ謬誤ノ見解ヲ下
セリト謂フ可シ但シ政府ニ於テハ紙幣ノ價格著シク低降セシ
ヲ以テ既ニ一千二百五十萬圓ノ内國債ヲ起シテ紙幣ノ流通上
ヨリ一千萬圓ヲ引上ケタレモ誤者同此句ハ其低降ヲ防止スルヲ得
ガリキ然レモ現今一切ノ國債紙幣ヲ込メテ云フヲ償還スル為
ニ公布セラレタル方策ハ二十一ヶ年誤者曰恐ラカ以內ニ年々
二千萬圓ヲ支出スルヲ以テ紙幣ノ低價ト為ルヲ防止スルヲ
得ベシト冀望マラルハナリ

此國債償還ノ方策ハ本年ノ豫算表ニ於テ竄モ注目スベキ要件
ナリ如何トアレバ他ノ諸件ハ猶ホ従前ノモノ、如ク此表ニ於
テ歳入出トモ一圓ヨリ一錢一厘ニ至ルマデ互ニ過不足ナキヤ
ウ一竄モウニ編製マラレタリ以テナリ又此豫算表ハ大藏卿大

限君カ之例言ヲ附シ而去ル三ヶ年間ノ豫算ト本年ノ豫算
トヲ比較シ且歳入出ノ各條款ニ付現今ノ増減ヲ示シタル表共
ニ其申文ヲ添エテ之ヲ三條實美閣下ニ進呈セラレレモノナリ
吾輩ハ此申文ニ於テ大藏卿ガ昨年ノ如ク今年ニ亦常費ノ超過
スル為ニ財政ノ困難ヲ受ルヲ無ランコトヲ更ニ懇願カレシヲ看
ル然レモ此懇願ハ之ヲ昨年ニ比スレバ一層切迫ニシテ將來ヲ
警戒スルノ語ヲ用カラレタリ

昨年ハ精密ナル豫算表ヲ製スルニ於テ格外ニ便利宜シカリレ
ト雖モ其豫算表ハ昨年十二月ノ終リマデ發出セラレ且本年
一月ヨリ六月ニ至ルマデ未タ前見マザル會計上ノ入費ヲ要ス
ルカ如キ非常ノ事件ハ發出マザリレニ吾輩ハ本年ノ豫算表ノ
例言ニ於テ昨年ノ豫算表ハ結果ニ一致マザリレトノ事ヲ公告
カレシヲ見ル蓋シ昨年ノ豫算表ハ此ノ如ク其不正ナリシヲ

公告セラレ而レテ明治九年度ハ即チ其豫算表ヲ公布セラレシ
後薩賊ノ叛乱起リシ年ナルヲ以テ此表ニ於テモ亦大ニ不正ノ
款條ナキヲ免カレザリシガ故ニ現今ノ豫算表ト前三ヶ年ノ豫
算表トノ細密ナル比較ハ大蔵卿ガ年々巧ニ計算ヲ掌ルノ術ニ
進歩スルニ後ツテ多クノ利益ヲ有モテリ

大隈君ハ曾テ太政大臣ノ命令ニ依リ、前ノ大蔵大輔井上氏及ヒ
三等出仕瀧澤氏ガ差出シタル日本帝國ノ償債ニ害ヲ生スル上
書ニ付テ反對ノ唇ヲ作りシ時即チ明治七年六月以來年々其豫
算表ニ於テ歳入ノ歳出ニ超過スルヲ示シ昨年ニ至リ始メテ
歳入出トモ細密ニ過不足ヲ計算セラレタリ蓋シ大隈君ハ本
年ノ豫算表ニ於テ尚ホ一步ヲ進メザルヲ得ザリシモノ、如シ
而ノ從前々年度ノ剩餘ヲ以テ翌年度ノ歳入ノ部ニ記入セシト
全様ノ方法ニ由テ現今モ亦々昨年ノ不足ヲ以テ本年ノ歳出ノ

部ニ記入セザルヲ得ズ如可トナレハ昨年ノ豫算ニ於テ不足ヲ
生シタリト明言サレシヲ以テナリ然レモ吾輩ハ此目的ニ就テ
何等ノ準備金アルヤヲ注視スルモ無益ニ屬セリ但シ此不足ハ
或ル方法ニ於テ之ヲ補填セザルヲ得ザルヲ以テ勿論其準備金
ハ何レノ処ニカ之レ無カル可ラス然レモ其額ハ何程夥多ナリ
シヤ且如何ナル方法ニ於テ補填セラレシヤ否ヤハ豫算表ニ於
テ一ノ返答モ為サザル所ノ問題ナリ

本會計年度ノ総歳入ハ金五千三百二十七万五千九百二十六圓
ナリト胸算セラレタリ此金額ハ昨會計年度ニ胸算シタル歳入
ニ超過スルヲ二百萬圓餘ナリトス大蔵卿ハ海關稅、地稅、酒稅、烟
草稅、郵便稅、北海道物產稅及其他ノ諸稅ニ於テ凡ソ金四百五十
萬圓ノ増加ヲ計算シ又歳入ノ別箇條ニ於テ礦山、鐵道及ヒ製造
所ヨリ收入スル稅金ノ著シク減スベキヲ先見セリ此減少

ハ登卯原紙証印ノ廢弛ヨリ生スル歳入ノ減少ヲ併セテ其金高凡ソ二百四十八万三千二百円ナリトス此金高ハ右ニ記載シタル総增高ヨリ減算スレバ則テ歳入ニ於テ金二百零一万九千四百円此計算ハ原文ノ誤リナルベシノ正味ノ增高ヲ残セリ現今ノ豫算表ニ於テ告知サレタル方案ニ從ヘバ公ケノ作業ヨリ収入スベキ歳入ハ其作業ノ純益ヲ生スル時ノミ之ヲ記載スベシト此故ニ歳入ノ中ニ電信局ハ純益ヲ生セザルヲ以テ其収税ヲ記載セザレバ礦山、鉄道、製鉄所、製糸所、造船所、造幣局及ヒ紙幣局ノ純益ヲ記載セリ就中紙幣局ノ純益ハ凡ソ十萬円ノ巨額ニ達セリ

特別ナル種類ノ歳入ニ於テノ減少ハ之ヲ豫算表ノ例言中ニ記載スルト下文ノ如シ即チ或ル會社ニ於テ年賦金ヲ以テ東京横濱間ノ鉄道ヲ購求スベキ約定ハ前會計年ノ間 解放セラレタ

リ故ニ豫算ノ歳入ハ此金高丈ケノ不足ヲ生シタリ而シテ其他「東京横濱間ノ鉄道ヲ賣却スル方策ハ昨年廢弛セラレシ故ニ政府ハ右會社ヨリ收受シタル年賦金ニ就テ利子ヲ拂フニ及ハズ」ト仔細ニ之ヲ言ヘハ此鉄道ヲ購求シタル會社ハ其買受金高ノ點定ニ於テ若干ノ年賦金ヲ上納シ而シテ政府ハ右會社ニ此年賦金ノ利子ヲ拂渡シタリ然レバ右會社ハ年賦金ノ上納ヲ止メシ時其約定ハ廢弛セラレテ既ニ上納シタル年賦金ハ返附セラレタルナリ若シ吾輩ハ今昨年ノ豫算表ニ於テ此鉄道賣却ノ事ニ付テ其他ノ報告ヲ得ント欲スレバ即チ「政府ハ財産ヨリ収入シタル歳入ノ款條ニ「政府ノ財産ノ賣却ハ金拾七万千七百二十」ト比較スルハ甚ク鎖細ナルモノニシテ吾輩ハ今所論ノ年賦金ヲ示スヤ否ヤヲ言フコト能ハス又吾輩ハ昨年ノ豫算表ニ於テ

「有利息内國債」款條ニ就キ拂渡サレタル年賦金ノ利子ヲ注視スルモ亦同ク無益ニ屬セリ此年賦金ト利子トハ勿論其豫算表ノ金高ノ中ニテ何處ニカ包括セラル、ニ相違ナケレモ甚ク深ク埋没シテ其外面ヨリ之ヲ看破スルコト能ハス而シテ此豫算表ハ全ク之ヲ人民ニ明示スルニ堪エベキモノナレバハ之ヲシテ人民ニ曉得シ易カラシムルコト公平ナル可シトノ旨意ヲ忘却サレシモノ、如シ

政府ニ於テ關係ヲ有シ且巨大ノ資本ヲ以テ設立シタル數多ノ作業ハ僅クニ一ニノモノヲ除クノ外常ニ歳入ヲ得ル能ハズレテ却テ歳出ヲ要スルノ淵源ト成リタリ故ニ唯純益ヲ生ズルカ如キ作業ノミヲ歳入ノ部ニ計上スル規則ナルヲ以テ諸製造所ハ多分ニ之ヲ歳出ノ部ニ記入セリ即チ是オノ製造所ハ其費スルヲ以テ得ル所ヲ償ハザレバナリ

内國債ヲ以テ募集シタル一千万円ノ金高ハ佞ノ末年四月三十日マデニ大藏省ニ拂込マル可シト雖モ之ヲ歳入ノ計算ニ入レスレテ別ニ記載セリ此理由ハ即チ此金高ノ一部分ヲモ本會計年度ノ間ニ消費スルコトヲ欲セザルニ在リ故ニ唯「内國債」ノ部ニ金一千二百五十万円ノ公債六分利付トシテ記入セラレシノミ此公債ヲ募集スルノ方法ハ吾輩が其始メテ公告アリシ時ニ方テ論セシ所ノ意見ヲ確定セルモノニシテ即チ内國ノ工業ヲ勸奨スルハ唯外面ノ目的タルニ過キ不然レモ其真ノ目的ハ紙幣ノ流通上ヨリ其幾分カラ引上ケ之ニ代フルニ利付ノ公債ヲ附与シ以テ紙幣ノ價格ヲ騰貴セシメント欲スルニ在リシナリ此公債ハ既ニ成功セラレタレモ爲替相場ノ上ニハ豫テ希望サレタル效果ヲ全ク生ズルコト無カリキ然レモ若シ此處置ヲ完成サレザリシ時ハ紙幣ノ價格ハ一層低降シタルナル可シ

経歳出高ハ既ニ論ヒシ如ク本年モ亦細密ニ歳入ト同一ノ高ニ
計算セラレタリ故ニ昨年豫算ノ歳出ヲ超過シテ二百零一万九
千四百円ノ増額アリ此増加シタル歳出ノ第一箇條ハ國債ノ償
還ナリ之レガ為ニ金二千百零九万九千零五十六円(総歳入高ノ
三分ノ一ヨリモ多シトス)ノ高ヲ備エラレタリ是レ即チ大蔵卿
ガ今年ヨリ二十八ヶ年間ニ總國債ヲ償還スベキ新規ノ方策ヲ
実施セルモノナリ此方策ハ之ヲ一閱スレバ國債償還ノ端緒ヲ
開クモノハ如シ然レモ之ヲ一層細密ニ注目スレバ這般ハ稍々
其体裁ヲ改メ一箇ノ目的ヲ以テ恰モ疎腐ナル小説ヲ演述スル
ニ異ナラス明治十年度ノ豫算ニ於テ内國債ノ利子及ヒ年賦拂
戻金ニ拂フ可キ金高ハ華士族ノ金祿公債証券ヲ込メテ一千七
百五十万四千ナリキ又明治九年度ノ豫算ニ於テ此金高ハ二千三
百万円ニシテ明治八年度ノ豫算ニ於テハ此金高ハ一千九百万円

ナリキ本年ハ政府ニ於テ外國債ノ年賦拂戻シ金ト利子トヲ合
算シテ金百七十二万六千二百六十五円ヲ拂ハザルヲ得ス而シ
テ内國債ノ利子金一千四百九十九万五千九百十二円ヲモ亦拂
ハザルヲ得ス又尚ホ政府ニ於テハ内國債ノ元金三百九十七万
六千八百七十九円ト紙幣償却ノ金高五十万四千ヲ拂フベシト公
告セリ此ノ如ク内國債ノ年賦元金ト紙幣償却金トヲ合算スレ
ハ其金高四百四十七万六千八百七十九円ト成ル此元金ノ拂戻
高ハ大蔵卿ニ於テハ都合ニ依リ随意ニ之ヲ取捨スルヲ得ベシ
ト然レ利子ヲ拂フベキ一千六百万円餘ノ金高教原文ノ誤
リシハ之ヲ備フルノ責ニ任セラレタリ蓋シ大蔵卿ガ之ヲ備フ
ル所ノ方法ハ欺偽ニ出ルモノナリ
吾輩ハ本年歳出ノ増加シタル款條ニ於テ注目スルモノ左ノ如
シ即チ金十一万七千百零二円ハ賞勲年金金五十七万二千六百六

十四、八軍人恩給及七負傷者療養諸費、金百四十九万五千五百八十五円、八開拓使ナリ此開拓使ノ常費ニ付テハ例言ニ於テ、北海道物産税及七官有物ニ属スル収入多キヲ加ヘタルニ從テ交付スベキ金高モ亦増加セシニ由ルトノ珍奇ナル意見ヲ述ベラレタリ、北海道ヨリ収入スル諸税ノ増加シタル金高ハ三十八万八千五百零九円ナリト胸算セラル蓋シ差引一百万円以上ノ不足ナリ

興業費及七營業資本ノ欠額補填、金一百二十六万七千七百六十四円ハ是オノ製造所ニ拂渡ス入費ヲ登録スベキ新法ノ立タルガ爲ニ此豫算表中ニ始メテ記入セラレタリ而シテ是オノ製造所ハ若シ政府ノ保護ヲ受ケザレバ明日ニモ分散スベキモノナル可シ元來政府ノ之ヲ保護スル主要ノ目的ハ「ゴースキート」氏ノ語ヲ用テ「自國ニ天然産出スルニ不適當ナル欠或ハサナクは

政羅巴ヨリ輸入スル物品ト拮抗スル價格ヲ以テ産出スルヲ得ザルガ如キ元貨物ヲ製造セント欲スルニ在ルモノ、如シ、此一句ハ損失ヲ預ニス強テ又三府三十五縣ニ於テ凡ソ金七万円此一句ハ損失ヲ預ニス強テ及七地方警察ニ於テ凡ソ金五十万円ノ増加アリ但シ此増加シタル警察費ノ一部ハ例言ニ從ヘハ神戸及横濱ノ外國人居留地警察ニ属スル費途ノ増加ヲ要スルニ由ルモノトス又右ニ記載シタル諸箇條ノ中ニ皇帝陛下ノ北國御巡行費金二十八万三千円ノ豫算入費ト他ノ小款條トヲ加ヘザルヲ得ザルヲ以テ歳出ノ全キ増額ハ之ヲ前年ノ豫算表ニ比較スレバ則金六百五十万円以上ナリトス

爰ニ歳出ノ減少スベキ見込アル別款條アリテ是オノ金高ハ凡ソ四百五十万円ナリ即チ開拓使、郵便局、警視局、地租改正局ヲ除クノ外、社寺、元老院其他諸省局ノ従前ノ常費ハ各々節減セラ

レタレバナリ。○皇居ノ新築ハ当分ノ間見合マラレタルト看ユ
如何トナレバ吾輩ハ此目的ノ為ニ具備サレタル金高ヲ見出サ
レレバナリ

吾輩ハ密ニ歳入出ノ豫算ナルモノ、吟味ヲ廢棄シ以テ國債ノ
記載ヨリモ寧ロ一箇ノ精算ナルモノニ論及セザル前ニ一句ノ
言フベキコトアリ即チ大隈君カ租税ニ於テ新規ノ需要ヲ為レ且
政府ノ債主ニ信憑ヲ得ツ為メ其辛勞ヲ完成セント勤勉セル膽
畧固執及コチ能ク推測シテ須ラク之ヲ登記メンコトヲ要ス、大隈
君ハ本年ノ豫算表ヲ製スルニモ亦其体裁共ニ記入ノ完全ナル
コトニ就テ前年ノモノヲ改正メンコトヲ工夫シ然レテ吾輩ガ曾テ
考訂アルベレト考察シ尔後尙ホ吾輩ノ心ニ考訂ヲ要スベレト
感覺スルガ如キモノハ尙ホ更改スヘキ目的ヲ以テ記載セラレ
タリ然レモ吾輩ハ現今精密ニ過不足ナク製サレタル豫算表ハ

既ニ誤錯ナルモノト見ユルヲ以テ之ヲ断然信憑スルコトヲ得ス
又吾輩ハ大蔵卿ガ今年ノ地税ニ於テ金百八十万円以上ノ増額
ト酒税ニ於テ金百万円以上ノ増額ヲ計算スルニ方テ甚チ大膽
ニ過キザリレヤ否ヤヲ勿論証明スベキ方法ヲ有セザレバ決レ
テ之ヲ知ルニ由ナケレモ吾輩ハ必ス大蔵卿ガ之ヲ証明スルノ
方法ヲ有セリト推量ス然リト虽モ大蔵卿ハ本年ノ豫算表ヲ製
セシ後必ス歳出ニ影響ヲ及ボスベキ意外ノ事件ノ發生スルコ
ト先見シ能ハザリキ吾輩ハ爰ニ其一ニ例ヲ引証セン即チ先
月近衛兵隊ノ暴動アリレ後太政官ニ於テハ昨年底兒島ノ賊徒
征討ノ役ニ従事シタル各人ニ褒賞ヲ与フルコトヲ決定シタルガ
如キ是レナリ又一ノ意外ノ事件ハ會計上ニ最モ重大ノ關係ヲ
有レ而シテ恐ラリハ大蔵卿ガ本年內國債ニ於テ凡ソ金四百五
十万円ヲ償ハスベキ見込ヲ言出サレシハ既ニ其意見中ニ保タ

レタルモノレテ即チ本月九日ノ布告是レナリ此布告ニ依テ政府ハ華士族ノ金祿公債証券ニ於テ其定メラレタル利子ノ割合ニ從ヒ六十四圓ヨリ百圓マデノ價格ヲ以テ之ヲ華士族ヨリ買上ル事ヲ布告セラレタリ而シテ此布告ノ旨ニ從ヒ既ニ右証券ノ買上ラ願出シ者ハ甚ク多カリキ

國債ノ總計ハ金三億七千五百二十五萬三千五百五十六圓ナリト記載サレタリ此内訳左ノ如シ

金一千二百六十二萬四千七十二圓 有利息外國債
 金二億三千二百三萬九千八百十五圓 有利息內國債
 金九百六十五萬九千二百六十圓 無利息公債
 金一億二千九十二萬七千二百九圓 流通紙幣額
 內國債ノ内訳ハ左ノ如シ
 金千五百五十九萬四千二百五十五圓 新公債カ多利付

金千五百萬圓 征討費借入五分利付
 金千二百五十萬圓 起業公債六分利付
 金七億七千四百二十一萬九千九百十五圓 金祿公債五分六分七分一割利付
 金四十二萬三千三百二十五圓 舊神官配当公債八分利付
 金千六百十九萬六千三百七十五圓 秩祿公債八分利付
 金二百一十萬五千九百五十圓 金札引換公債六分利付
 金九百六十五萬九千二百六十圓 無利息公債
 金七億二千九十二萬七千二百九圓 紙幣流通額
 總計金三億六千二百六十二萬六千二百八十四圓
 前會計年豫算表ノ公布以來新內國債ノ増加セシモノ左ノ如シ

金二十三万四

新旧公債差金緑公債

金四十二万三千三百二十五円

旧神官配当緑公債

金千二百五十万四

起業公債

総計金千三百十五万四千三百二十五円

前會計年豫算表ノ公布以來公債ノ減少セシモノ左ノ如シ

金七拾七万四千九百四十四円

外國債

金八千三百五十円

秩祿公債

金二十一万八千八百二十九円

旧公債

金十二万七千五百二十二円

紙幣

総計金百十二万九千六百四十五円

但シ此金高ヲ右ニ掲ケタル新内國債ノ高ヨリ減算スレ

ハ其残り高左ノ如シ

金千二百二万四千六百八十円

但シ此金高ヲ昨十年ノ豫算表ニ記載シタル総國債高ニ合算スレハ其總計ハ即チ左ノ如シ

金三億六千三百二十二万五千六百七十七円

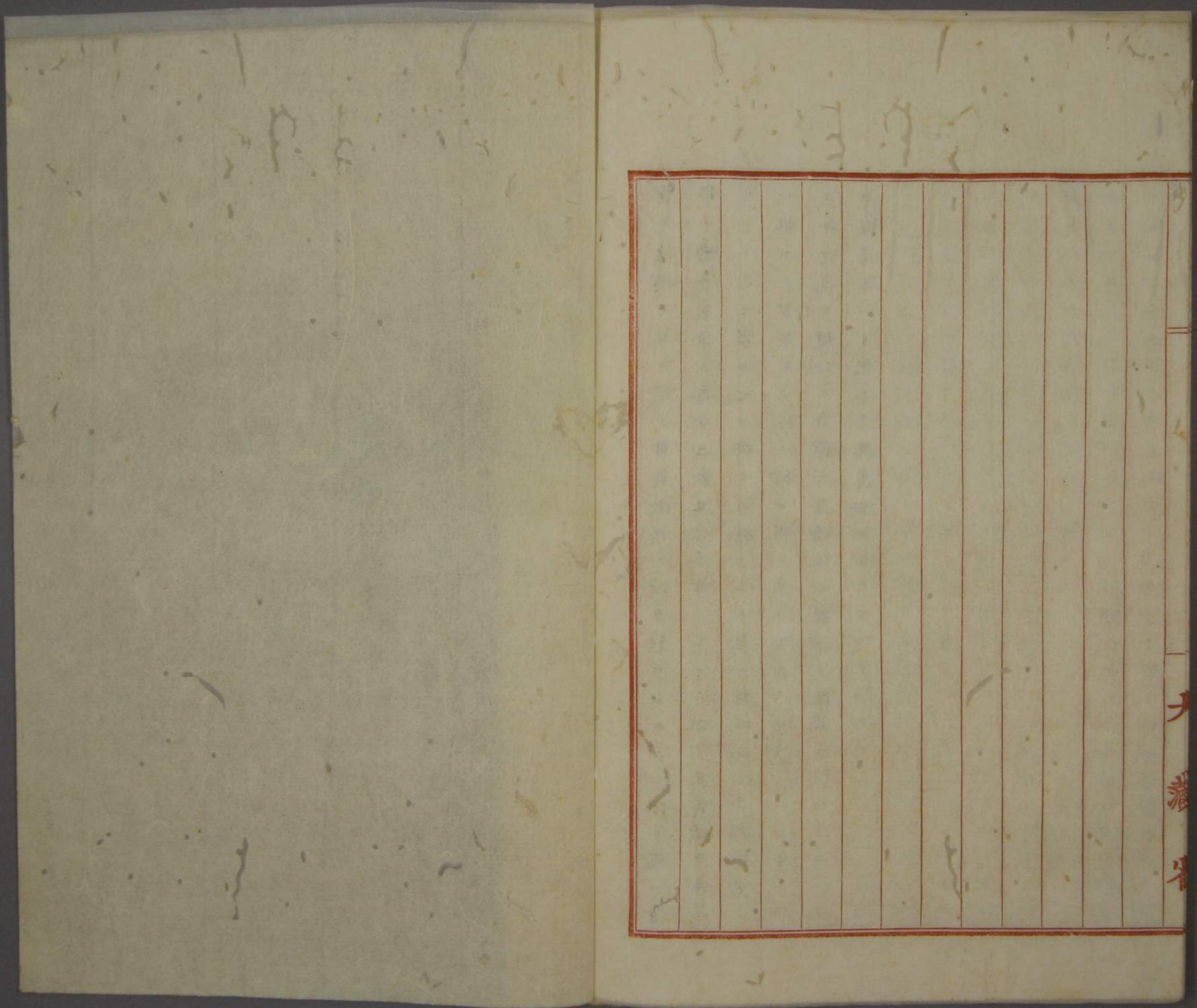
現今國債ノ總計ハ金三億七千五百二十五万三千五百五十七円ナリ

総計算ハ右ニ記載セシガ如シト雖モ紙幣ノ減少セシハ年々不意ノ事件ニ依リ損傷散失シタル平均高ヲ以テ之ヲ推量スルヨリモ他ニ淵源スル所ナキモノ、如シ又秩祿公債証書ノ減少セシハ現ニ存在スル証書ヲ一層精密ニ計算セシニ由ルモノ、如ク又無利息旧公債ノ減少セシハ既ニ年々償却ニ来レルモノヲ更ニ計算セシニ由ルモノ、如シ而シテ獨リ外國債ノ減少セシハ前會計年度ノ間ニ若干高ヲ償還セシニ由ルノミ又右全時間ニ新公債及ビ旧公債ノ名称ヲ以テ發行シタル公債証書ハ其金

十五万二千九百二十五円ニシテ例言ノ中ニハ「新公債ノ額ヲ結
収スル」為メニ之ヲ發行スベシト説明サレタリ吾輩ハ新公債ニ
就テハ全ク其形情ヲ知ルコト能ハズ

今若シ日本ノ三億七千五百万円ノ大負債ハ大蔵卿が言出サレ
タル方案ノ如ク本年ヨリ二十ハケ年間ニ年々二千万円ヲ支出
シテ元利共償還セラレ得ル歟ト問フ者アラバ恐ラクハ償還セ
ラレ得ベシト答シ殊ニ若シ華士族ノ金祿公債誌存(此金高ハ總
國債ノ殆んど半高ヲ成セリ)ヲ割引ヲ以テ買上ルノ方案ハ寡婦
孤者幼者及々誌存所有主ノ外他ノ者ニモ之ヲ活用シテ其区域
ヲ擴充スル所而シテ若シ日本ハ右年限ノ間其従前ノ負債ヲ減
サスル為メニ益シ世上ノ信憑ヲ得ルモ其勢カニ依テ新ニ國
債ヲ募ルコトヲ忍耐スル所ハ尚ホ然リトス然レモ吾輩ハ従来ノ
經驗ニ拠テ之ヲ看ルニ日本ハ其治者ヲ誘導シテ他ノ富國ノ經

費ニ模倣セシメ以テ自負傲慢ノ心ヲ起サシムルニ依リ或ハ奢
侈ノ增長戦争ノ再發凶歉其他不幸ノ災害ニ依テ其負債ヲ償還
スルヨリモ寧ロ之ヲ尚ホ負擔スルニ至ル可ク而シテ大隈君ノ
大胆ナル方案ノ實際ニ行レ得ルヨリモ甚ク相違シテ日本ハ此
三十年間ニ現今ノ負債ニ三倍スル重荷ヲ担承スルコトアル可シ
ト假定スルモ決シテ其道理ナキニアラザルナリ



天
藏
卷

